

Q2 ダクタイル鉄管の継ぎ輪 について教えてください

Answer

1. 継ぎ輪とは

継ぎ輪は両受口の異形管になります。特徴としては挿し口がどこまでも入る構造であり、また、受口が2つあることによって直管の2倍の屈曲に対応することができます。



写真 GX形継ぎ輪の外観

2. 使用される場所

継ぎ輪が使用される場所としては、主に次のようなところになります。

(1) 結び配管（せめ配管）部

両方向から配管される場合の最後の結び配管に使用されます。

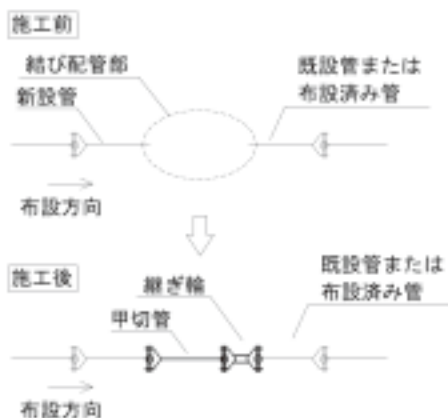


図1 結び配管部の使用例

(2) 構造物との取り合い部

継ぎ輪を2つ用いることで大きな地盤の動きに対応できるので、構造物との取り合い部で使用されることもあります。

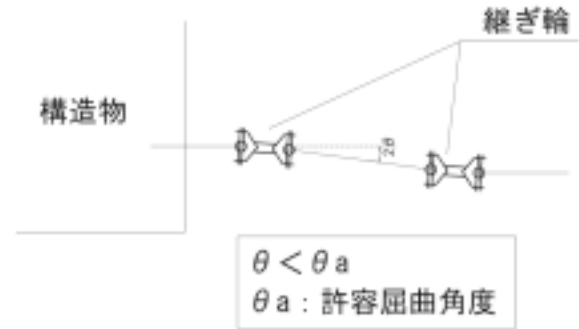


図2 構造物との取り合い部の使用例

(3) その他

受口の向きを変えたい場合や管路を大きく屈曲させたい場合、また、両端が挿し口の管（乙切管）が多く残ったときに有効利用する場合などにも使用することがあります。

3. 注意点

- ① 継ぎ輪と異形管を直接接合することは避けてください。異形管の挿し口外径寸法は挿し口先端から受口に挿し込まれて接合するのに必要な範囲しか許容差が確保されていません。継ぎ輪は挿し口がどこまでも入る構造のため、異形管と接合すると許容差から外れた位置で接合される可能性があり、その場合、水密性は保証できなくなります。

- ② 継ぎ輪には伸縮及び屈曲性能があるので、一体化範囲内には使用できません。

なお、伸縮、屈曲性能に制限がかかりますが、特殊押輪を使用して一体化範囲内で使用する場合があります。